

## 今期、黒鉛電極メーカーは大幅に利益を伸ばす

昨年来、中国の粗悪な鉄鋼生産（地条鋼）の規制に伴い、高品質の鉄鋼の生産に必要なニードルコークスが高騰し、その結果として日本国内の電炉用黒鉛電極が高騰した。黒鉛電極の高騰に伴い、電炉用電極メーカーは売上げ、利益とも予想を大きく超えて伸ばし、東海カーボンは直近の決算期（18年1～3月期）で売上高415億円（前年同期比73%増）、純利益92億円（前年同期比5.8倍）となった。18年12月の純利益見込みも前期比4倍の468億円になる予想を発表した。

電極用原料であるニードルコークスは、昨今急伸長しているEV用リチウム二次電池の負極用材料としても使用され、その用途としても売上増に貢献している。

他の黒鉛電極大手三社も、いずれも大きく利益を増し、日本カーボンは同期の売上84億円（前年比48%増）、純利益18億円（前期は赤字）。昭和電工は18年通期純利益の当初見込みが650億円だったものが大幅上方修正で850億円（前期比2.5倍）。SECカーボンも18年3月期において2.9倍の上方修正を行い20億円の黒字と発表した。

一方、黒鉛電極の高騰がコスト増となって経営にマイナスとなる電炉製鋼会社は厳しい収益結果となっている。

大手電炉製鋼会社の一つ、東京製鐵では18年3月期営業利益は105億円（前期比0.4%減、予想は130億円）であった。

（日経新聞,四季報オンライン,株探等から引用）